

不慮の事故の国際比較

田中 哲郎*¹ 石井 博子*² 向井田 紀子*² 杉山 太幹*³

I はじめに

わが国はこの50年間に、衛生状態や栄養状態の改善、予防接種や健康診査の普及、医学の進歩などにより疾病構造に大きな変化がみられている。

わが国の平成9年人口動態統計の全年齢階級

の死因順位は、第1位が悪性新生物、第2位が心疾患、第3位が脳血管疾患、第4位が肺炎、第5位が不慮の事故、第6位が自殺である¹⁾。一方、65歳を生存目標とした疾患別のYPLL (Years of Potential Life Lost) は第1位が悪性新生物、第2位が不慮の事故、第3位が心疾患、第4位が自殺、第5位が脳血管疾患である²⁾。

わが国では既に疾病対策は種々検討されており、今後は、事故対策や自殺対策にも目を向ける必要がある。わが国の小児の事故死亡率は欧米などの先進国との比較において、0～4歳の年齢階級で高いことが明らかにされている³⁾⁴⁾、他の年齢階級に関しては明らかではない。

以上のことより、不慮の事故による死亡率の国際比較を行い、わが国の不慮の事故の特徴を明らかにし、防止対策を考える上での基礎的な資料とすることを目

表1 全年齢階級における死亡率の比較

	全死因		不慮の事故		自動車事故		不慮の中毒	
1	日本	706.0	イギリス	20.5	スウェーデン	5.7	ドイツ	0.3
2	カナダ	711.8	オランダ	22.0	イギリス	6.2	オランダ	0.3
3	オーストラリア	711.8	オーストラリア	25.2	ノルウェー	6.6	日本	0.4
4	ニュージーランド	786.7	スウェーデン	27.4	オランダ	7.7	フランス	0.6
5	アメリカ	875.4	日本	29.1	スイス	9.0	ニュージーランド	0.7
6	オランダ	877.6	ドイツ	29.2	カナダ	10.4	イタリア	0.7
7	スイス	886.3	カナダ	29.8	オーストラリア	10.8	スウェーデン	1.4
8	フランス	898.1	ニュージーランド	34.7	日本	10.9	イギリス	1.7
9	ギリシャ	958.1	アメリカ	35.1	ドイツ	11.0	ノルウェー	1.7
10	イタリア	968.2	オーストラリア	36.9	オーストラリア	13.4	オーストラリア	1.8
11	オーストラリア	1 008.8	ノルウェー	38.2	フランス	14.2	オーストラリア	2.0
12	ノルウェー	1 016.5	ギリシャ	38.6	イタリア	14.6	ギリシャ	2.4
13	スウェーデン	1 060.8	イタリア	39.1	アメリカ	15.9	カナダ	2.5
14	ドイツ	1 083.2	フランス	51.4	ニュージーランド	17.5	アメリカ	3.5
15	イギリス	1 101.4	スイス	69.3	ギリシャ	23.3	スイス	5.1

	不慮の墜落		火災および火傷による不慮の事故		不慮の溺死	
1	日本	3.8	オランダ	0.4	イギリス	0.5
2	ギリシャ	4.7	スイス	0.5	オランダ	0.6
3	アメリカ	5.2	イタリア	0.7	ドイツ	0.8
4	オーストラリア	5.6	オーストラリア	0.7	イタリア	1.0
5	ニュージーランド	6.7	ドイツ	0.8	フランス	1.1
6	イギリス	7.5	オーストラリア	0.8	スウェーデン	1.2
7	カナダ	8.2	スウェーデン	0.8	カナダ	1.2
8	オランダ	10.0	フランス	0.8	スイス	1.3
9	スウェーデン	12.2	イギリス	0.9	アメリカ	1.3
10	ドイツ	12.3	カナダ	1.0	オーストラリア	1.4
11	オーストラリア	12.4	ニュージーランド	1.0	オーストラリア	1.4
12	フランス	16.5	日本	1.1	ニュージーランド	1.7
13	イタリア	16.9	ギリシャ	1.1	ノルウェー	1.8
14	ノルウェー	21.1	ノルウェー	1.2	日本	3.1
15	スイス	22.3	アメリカ	1.5	ギリシャ	3.3

* 1 国立公衆衛生院母子保健学部長 * 2 同研究生 * 3 元財団法人復光会

的として検討を行った。

II 方法および対象

資料はWHOのWorld Health Statistics Annualを使用し、最も新しいデータが得られる1996年版⁵⁾および1995年版⁶⁾を使用し、不慮の事故による死亡率（出生または人口10万人対）について算出した。比較対象国は日本（使用統計年1994年）、カナダ（1995年）、アメリカ（1994年）、オーストラリア（1995年）、フランス（1994年）、ドイツ（1995年）、ギリシャ（1995年）、イタリア（1993年）、オランダ（1995年）、ノルウェー（1994）、スウェーデン（1995年）、スイス（1994年）、イギリス（1995年）、オーストラリア（1994年）、ニュージーランド（1993年）の先進15カ国とした。

III 結 果

(1) 国別の事故死亡率

わが国の全死因の全年齢階級の死亡率（人口10万対）は706.0で、比較15カ国中最も低い値であったが、不慮の事故による全年齢階級の死亡率は29.1で、比較した15カ国中5位であった。事故の死亡率の低い国としては、イギリス20.5、オランダ22.0、オーストラリア25.2、スウェーデン27.4で、高い国はスイス69.3、フランス51.4、イタリア39.1などであった。

事故の種類別の死亡率についてみると、自動車事故の死亡率の低かった国はスウェーデン5.7、イギリス6.2、ノルウェー6.6などで、日本は10.9で15カ国中8位であった。不慮の中毒は日本は0.4で、ドイツ0.3、オランダ0.3に次いで3位であった。不慮の墜落では日本は3.8で15

表2 不慮の事故の年齢階級別死亡率

	0歳		1～4		5～14		15～24		25～34	
1	スウェーデン	4.8	スウェーデン	4.1	イギリス	4.1	スウェーデン	13.6	スウェーデン	11.2
2	オランダ	5.2	イギリス	4.9	スウェーデン	4.2	オランダ	15.7	オランダ	11.5
3	イギリス	7.5	ギリシャ	6.0	オランダ	4.3	イギリス	18.2	日本	11.8
4	ドイツ	9.3	イタリア	6.1	日本	4.8	日本	19.3	ノルウェー	12.2
5	オーストラリア	10.1	ノルウェー	6.6	ドイツ	5.5	ノルウェー	19.6	イギリス	13.5
6	オーストラリア	10.2	オランダ	7.7	イタリア	5.6	カナダ	28.7	ドイツ	18.7
7	カナダ	10.3	ドイツ	8.4	オーストラリア	6.0	オーストラリア	29.1	イタリア	22.1
8	ノルウェー	11.6	カナダ	8.8	オーストラリア	6.5	ドイツ	30.2	オーストラリア	22.1
9	スイス	12.1	フランス	8.9	ノルウェー	6.5	イタリア	31.5	カナダ	23.7
10	イタリア	12.5	オーストラリア	11.1	フランス	6.6	フランス	33.1	フランス	27.0
11	フランス	20.1	日本	11.7	ニュージーランド	6.8	アメリカ	38.7	オーストラリア	27.4
12	アメリカ	22.5	オーストラリア	11.7	ギリシャ	7.1	オーストラリア	41.4	アメリカ	32.5
13	ギリシャ	23.6	スイス	14.1	カナダ	7.1	ギリシャ	42.1	ニュージーランド	33.1
14	日本	25.8	アメリカ	15.9	スイス	7.7	ニュージーランド	54.5	ギリシャ	44.1
15	ニュージーランド	40.8	ニュージーランド	21.6	アメリカ	9.3	スイス	57.4	スイス	56.5

	35～44歳		45～54		55～64		65～74		75～	
1	オランダ	9.8	オランダ	10.2	イギリス	14.7	イギリス	25.8	ギリシャ	98.1
2	スウェーデン	12.0	イギリス	12.8	オランダ	15.1	オランダ	28.2	イギリス	116.9
3	イギリス	12.2	ドイツ	17.6	オーストラリア	20.5	ドイツ	32.3	オーストラリア	129.7
4	日本	12.6	スウェーデン	18.2	ドイツ	21.7	スウェーデン	33.0	アメリカ	138.7
5	ドイツ	17.2	ニュージーランド	19.7	ニュージーランド	23.0	ニュージーランド	33.8	ニュージーランド	143.6
6	ノルウェー	17.8	日本	19.8	スウェーデン	23.4	オーストラリア	33.9	スウェーデン	167.3
7	イタリア	18.1	オーストラリア	20.0	カナダ	24.4	カナダ	40.7	オーストラリア	169.4
8	オーストラリア	19.5	ノルウェー	20.9	ノルウェー	26.6	アメリカ	44.2	日本	173.7
9	カナダ	22.9	カナダ	21.2	イタリア	27.5	オーストラリア	45.8	ドイツ	174.5
10	フランス	24.2	イタリア	21.5	アメリカ	30.6	イタリア	46.6	カナダ	181.0
11	オーストラリア	25.2	アメリカ	29.4	オーストラリア	34.1	ノルウェー	46.9	オランダ	187.9
12	ニュージーランド	31.8	オーストラリア	30.1	日本	34.3	ギリシャ	54.1	イタリア	262.4
13	アメリカ	32.5	フランス	31.6	ギリシャ	40.3	日本	56.2	ノルウェー	283.9
14	ギリシャ	34.0	ギリシャ	31.9	フランス	40.5	フランス	69.8	フランス	369.6
15	スイス	47.2	スイス	52.4	スイス	53.7	スイス	83.1	スイス	372.8

表3 1～4歳の事故種類別死亡率

	不慮の事故		自動車事故		不慮の中毒		不慮の墜落	
1	スウェーデン	4.1 (35)	ノルウェー	0.8 (25)	カナダ	-	スウェーデン	-
2	イギリス	4.9 (42)	スウェーデン	1.2 (37)	オーストリア	-	オーストラリア	0.1 (12)
3	ギリシャ	6.0 (51)	イギリス	1.5 (45)	オランダ	-	イギリス	0.2 (20)
4	イタリア	6.1 (52)	オランダ	2.3 (69)	ノルウェー	-	カナダ	0.3 (39)
5	ノルウェー	6.6 (56)	ドイツ	2.5 (77)	スウェーデン	-	アメリカ	0.4 (49)
6	オランダ	7.7 (66)	イタリア	2.7 (80)	スイス	-	ノルウェー	0.4 (52)
7	ドイツ	8.4 (72)	フランス	2.8 (86)	イギリス	0.0 (39)	ニュージーランド	0.4 (55)
8	カナダ	8.8 (75)	オーストラリア	3.0 (91)	フランス	0.1 (81)	ドイツ	0.4 (57)
9	フランス	8.9 (76)	日本	3.3 (100)	日本	0.1 (100)	ギリシャ	0.5 (61)
10	オーストラリア	11.1 (94)	ギリシャ	3.4 (102)	イタリア	0.1 (162)	オーストラリア	0.5 (66)
11	日本	11.7 (100)	カナダ	3.7 (113)	ドイツ	0.1 (179)	スイス	0.6 (74)
12	オーストラリア	11.7 (100)	オーストラリア	4.5 (136)	オーストラリア	0.2 (232)	フランス	0.6 (77)
13	スイス	14.1 (120)	アメリカ	5.0 (152)	ギリシャ	0.2 (289)	オランダ	0.8 (96)
14	アメリカ	15.9 (136)	スイス	5.6 (169)	アメリカ	0.2 (295)	日本	0.8 (100)
15	ニュージーランド	21.6 (185)	ニュージーランド	8.2 (249)	ニュージーランド	0.9 (1 037)	イタリア	1.2 (153)

注 ()は日本を100とした割合

表4 25～34歳の事故種類別死亡率

	不慮の事故		自動車事故		不慮の中毒		不慮の墜落	
1	スウェーデン	11.2 (95)	ノルウェー	5.4 (73)	ドイツ	0.2 (68)	オランダ	0.6 (89)
2	オランダ	11.5 (97)	スウェーデン	5.5 (74)	日本	0.4 (100)	日本	0.6 (100)
3	日本	11.8 (100)	イギリス	6.6 (88)	フランス	0.4 (110)	カナダ	0.8 (126)
4	ノルウェー	12.2 (103)	日本	7.4 (100)	オランダ	0.6 (161)	オーストラリア	0.9 (137)
5	イギリス	13.5 (115)	オランダ	7.9 (107)	スウェーデン	0.7 (202)	アメリカ	0.9 (146)
6	ドイツ	18.7 (159)	スイス	9.6 (130)	イタリア	0.8 (222)	イギリス	0.9 (147)
7	イタリア	22.1 (188)	カナダ	11.8 (158)	ニュージーランド	0.9 (258)	スウェーデン	1.0 (161)
8	オーストラリア	22.1 (188)	オーストラリア	12.3 (166)	ノルウェー	1.2 (338)	フランス	1.2 (183)
9	カナダ	23.7 (201)	ドイツ	13.6 (183)	イギリス	3.1 (869)	ノルウェー	1.2 (186)
10	フランス	27.0 (230)	イタリア	14.9 (200)	オーストラリア	3.1 (875)	ドイツ	1.3 (201)
11	オーストラリア	27.4 (233)	オーストラリア	15.0 (201)	カナダ	3.5 (994)	イタリア	1.6 (249)
12	アメリカ	32.5 (276)	フランス	18.3 (246)	オーストラリア	3.6 (1 008)	ニュージーランド	1.7 (257)
13	ニュージーランド	33.1 (281)	アメリカ	18.4 (248)	アメリカ	5.6 (1 575)	ギリシャ	2.0 (309)
14	ギリシャ	44.1 (375)	ニュージーランド	22.1 (297)	ギリシャ	7.6 (2 130)	スイス	2.4 (371)
15	スイス	56.5 (480)	ギリシャ	28.6 (384)	スイス	14.3 (4 028)	オーストラリア	2.7 (415)

注 ()は日本を100とした割合

表5 65～74歳の事故種類別死亡率

	不慮の事故		自動車事故		不慮の中毒		不慮の墜落	
1	イギリス	25.8 (46)	イギリス	6.9 (36)	オランダ	0.1 (11)	日本	7.6 (100)
2	オランダ	28.2 (50)	スウェーデン	7.3 (38)	オーストラリア	0.3 (35)	オーストラリア	7.8 (102)
3	ドイツ	32.3 (57)	ノルウェー	9.0 (47)	ドイツ	0.3 (39)	ニュージーランド	8.5 (112)
4	スウェーデン	33.0 (59)	ドイツ	9.5 (49)	スイス	0.4 (45)	アメリカ	8.6 (113)
5	ニュージーランド	33.8 (60)	オランダ	11.4 (59)	ニュージーランド	0.4 (54)	イギリス	9.2 (121)
6	オーストラリア	33.9 (60)	スイス	11.9 (62)	ギリシャ	0.6 (77)	オランダ	9.7 (127)
7	カナダ	40.7 (72)	カナダ	13.0 (68)	日本	0.8 (100)	ギリシャ	10.5 (138)
8	アメリカ	44.2 (79)	オーストラリア	14.6 (76)	フランス	0.9 (110)	カナダ	11.1 (146)
9	オーストラリア	45.8 (82)	オーストラリア	15.1 (78)	イギリス	0.9 (117)	スウェーデン	13.0 (170)
10	イタリア	46.6 (83)	フランス	15.8 (82)	イタリア	0.9 (121)	ドイツ	14.8 (194)
11	ノルウェー	46.9 (83)	ニュージーランド	16.7 (86)	オーストラリア	1.3 (160)	フランス	16.4 (215)
12	ギリシャ	54.1 (96)	アメリカ	17.6 (91)	アメリカ	1.7 (215)	イタリア	17.6 (231)
13	日本	56.2 (100)	イタリア	18.7 (97)	スウェーデン	1.9 (236)	オーストラリア	18.6 (243)
14	フランス	69.8 (124)	日本	19.3 (100)	カナダ	2.2 (280)	ノルウェー	18.8 (247)
15	スイス	83.1 (148)	ギリシャ	28.4 (147)	ノルウェー	2.9 (371)	スイス	25.3 (332)

注 ()は日本を100とした割合

火災および火傷による不慮の事故		不慮の溺死	
オーストリア	-	イタリヤ	0.4 (12)
ギリシャ	-	ギリシャ	0.5 (13)
イタリア	0.2 (18)	イギリス	0.5 (14)
オランダ	0.6 (63)	スウェーデン	0.6 (17)
フランス	0.7 (74)	ノルウェー	1.2 (33)
日本	1.0 (100)	フランス	1.6 (43)
カナダ	1.1 (106)	カナダ	1.7 (45)
イギリス	1.2 (116)	オーストリア	1.8 (50)
ドイツ	1.2 (116)	ドイツ	2.1 (57)
スイス	1.2 (117)	オランダ	2.5 (68)
スウェーデン	1.2 (123)	アメリカ	3.0 (80)
ノルウェー	1.2 (123)	スイス	3.5 (95)
オーストラリア	1.3 (126)	日本	3.7 (100)
ニュージーランド	2.6 (259)	オーストラリア	4.5 (122)
アメリカ	3.8 (378)	ニュージーランド	4.8 (128)

カ国中最も低く、次いでギリシャ4.7、アメリカ5.2などの順であった。火災および火傷による不慮の事故はオランダ0.4、スイス0.5などで、日本は1.1で15カ国中12位であった。不慮の溺死はイギリス0.5、オランダ0.6、ドイツ0.8などで、日本は3.1と比較15カ国中14位と高い死亡率であった(表1)。

(2) 年齢階級別の事故死亡率

0歳の事故による死亡率(出生10万対)は、スウェーデン4.8、オランダ5.2、イギリス7.5などで、日本は25.8で比較15カ国中14位と高値を示していた。1～4歳の事故による死亡率(人口10万対)ではスウェーデン4.1、イギリス4.9、ギリシャ6.0、イタリア6.1などで、日本は11.7で11位であった。5～14歳ではイギリス4.1、スウェーデン4.2、オランダ4.3で、日本は4位の4.8であった。15～24歳ではスウェーデン13.6、オランダ15.7、イギリス18.2、日本は19.3で4位であった。25～34歳ではスウェーデン11.2、オランダ11.5、日本は11.8で3位であった。35～44歳はオランダ9.8、スウェーデン12.0、イギリス12.2、日本は12.6で4位。45～54歳ではオランダ10.2、イギリス12.8、ドイツ17.6、スウェーデン18.2、日本は19.8の6位であった。55～64歳ではイギリス14.7、オランダ15.1、オーストラリア20.5などで、日本は34.3の13位と高い値を示していた。65～74歳ではイギリス25.8、オランダ28.2、ドイツ32.3などで、日本は56.2で13位であった。75歳以上ではギリシャ98.1、イギリス116.9、オーストラリア129.7などで、日本は173.7の8位であった(表2)。

(3) 1～4歳の事故死亡率

この年齢階級のわが国の事故による死亡率は11.7で先進国の中で11位であった。

事故の種類別に死亡率をみると、わが国の不慮の溺死の死亡率は3.7で15カ国中13位と高値であった。低い国としては、イタリア0.4(日本を100とした場合12)、ギリシャ0.5(13)、イギリス0.5(14)などであった。

自動車事故は3.3で15カ国中9位で、低い国は

火災および火傷による不慮の事故		不慮の溺死	
ギリシャ	0.1 (33)	オランダ	0.3 (40)
オランダ	0.2 (49)	イギリス	0.4 (50)
オーストリア	0.3 (72)	ドイツ	0.5 (60)
ドイツ	0.4 (96)	ノルウェー	0.6 (70)
イタリア	0.4 (99)	フランス	0.7 (84)
日本	0.4 (100)	オーストリア	0.8 (99)
スウェーデン	0.4 (102)	日本	0.9 (100)
オーストラリア	0.4 (108)	イタリア	0.9 (101)
イギリス	0.4 (108)	カナダ	1.0 (117)
フランス	0.4 (109)	スウェーデン	1.0 (122)
スイス	0.5 (130)	スイス	1.3 (150)
ノルウェー	0.6 (153)	アメリカ	1.3 (153)
ニュージーランド	0.9 (234)	オーストラリア	1.3 (153)
カナダ	1.0 (243)	ニュージーランド	1.5 (172)
アメリカ	1.0 (246)	ギリシャ	2.6 (301)

火災および火傷による不慮の事故		不慮の溺死	
スイス	0.5 (26)	イギリス	0.4 (6)
スウェーデン	0.6 (30)	オランダ	0.8 (11)
オランダ	0.7 (33)	アメリカ	0.8 (12)
ニュージーランド	0.9 (42)	ニュージーランド	0.9 (12)
ドイツ	1.1 (52)	ドイツ	0.9 (13)
オーストリア	1.1 (55)	イタリア	1.2 (17)
イタリア	1.2 (58)	フランス	1.2 (18)
オーストラリア	1.2 (58)	スイス	1.4 (21)
フランス	1.3 (63)	オーストラリア	1.5 (22)
イギリス	1.4 (70)	オーストリア	1.5 (22)
カナダ	1.6 (78)	カナダ	1.7 (24)
日本	2.0 (100)	スウェーデン	2.1 (31)
ノルウェー	2.1 (104)	ノルウェー	3.7 (54)
アメリカ	2.3 (112)	ギリシャ	6.5 (95)
ギリシャ	2.8 (140)	日本	6.9 (100)

ノルウェー0.8(25), スウェーデン1.2(37), イギリス1.5(45)などであった。わが国より不慮の事故死亡率が低い国で, 自動車事故による死亡率が高い国は, ギリシャ3.4(102), カナダ3.7(113), オーストラリア4.5(136)の3カ国であった。

火災および火焰による不慮の事故の死亡率ではわが国は1.0で15カ国中6位と比較的低い値であった。

不慮の墜落の死亡率は0.8で15カ国中14位であった。死亡率の低い国としては, スウェーデンは墜落事故はみられず, オーストラリア0.1(12), イギリス0.2(20), カナダ0.3(39)などであった(表3)。

(4) 25～34歳の事故死亡率

25～34歳のわが国の事故による死亡率は11.8で先進国15カ国の中では3位と低値であった。

事故の種類別死亡率では, 自動車事故の低い国は, ノルウェー5.4(日本を100とした場合73), スウェーデン5.5(74), イギリス6.6(88)で, 日本は7.4で4位であった。

溺水による死亡率の低い国はオランダ0.3(40), イギリス0.4(50), ドイツ0.5(60)などで, 日本の溺水の死亡率は0.9で15カ国中第7位であった。

不慮の墜落の死亡率の低い国はオランダの0.6(89), 次いで日本の0.6で15カ国中2位, カナダ0.8(126), オーストラリア0.9(137)などの順であった(表4)。

(5) 65～74歳の事故死亡率

65～74歳のわが国の事故による死亡率は56.2で, 先進国の中で13位と高値であった。

事故の種類別の死亡率では, わが国の自動車事故の死亡率は19.3で15カ国中14位で, 低い国は, イギリス6.9(日本を100とした場合36), スウェーデン7.3(38), ノルウェー9.0(47)などであった。自動車事故の死亡率がわが国より高い国は, ギリシャ28.4(147)のみであった。

わが国の不慮の溺水の死亡率は6.9で15カ国中最も高い値である。低い国としては, イギリ

ス0.4(6), オランダ0.8(11), アメリカ0.8(12), ニュージーランド0.9(12), ドイツ0.9(13)などで, 11カ国はわが国の死亡率の4分の1以下であった。

わが国の墜落による死亡率は7.6で15カ国中で最も低い値であった。次いで低い国は, オーストラリア7.8(102), ニュージーランド8.5(112), アメリカ8.6(113)などであった(表5)。

IV 考 察

不慮の事故の死亡率の国際比較は一部の年齢についてのみしか行われていなかった³⁾ので, WHOのAnnualを使用し, 全年齢階級について欧米先進15カ国の不慮の事故による死亡率を算出し, 比較したところ, わが国の事故死亡率は全年齢階級では29.1と比較的低値であった。

しかし, 事故の種類別にみると, わが国は比較15カ国中で不慮の溺死が14位と高く, 不慮の墜落が15カ国中で最も低い死亡率であった。

一方, わが国だけでみると, 自動車事故の死亡率が10.9, 不慮の墜落が3.8, 不慮の溺死が3.1, 火災及び火焰による不慮の事故が1.1で, 墜落による死亡率の方が溺死より高くなっていた。特に, 溺死の死亡率が高い年齢階級は1～4歳および65～74歳, 75歳以上であった。0～34歳までは溺死の死亡率が高く, 45歳からは墜落の死亡率の方が高くなっていた。

年齢階級別では, わが国の事故死亡率の高い年齢階級は, 比較15カ国中0歳が25.8で先進15カ国中14位, 1～4歳が11.7で11位, 55～64歳が34.3で12位, 65～74歳が56.2で13位で, 死亡率の低い年齢階級は, 25～34歳が11.8で15カ国中3位と低値であった。また, 5～14歳は4.8, 15～24歳は19.3, 35～44歳は12.6でそれぞれ4位であった。

一方, 日本だけで年齢階級別にみると, 75歳以上の死亡率が173.7と最も高く, 5～14歳が4.8と最も低かった。

わが国の事故死亡率は先進国15カ国の比較において全年齢階級でみると低値であるが, 年齢

階級別では0～4歳の乳幼児と65歳以上の老人の死亡率が高いことより、今後この年齢階級の事故防止対策を行う必要がある。

特に、乳幼児と老人の溺水事故および老人の不慮の墜落、交通事故、火災および火焰による不慮の事故の死亡率が高いので、これらの防止が重要課題である。乳幼児と老人においての事故防止は多くの点で共通するが、浴槽の縁の高さでは老人は低いほうが入浴の際容易であるが、乳幼児にとっては浴槽の縁の低いものは転落の危険があるなど、両者において合い入れない点もみられるものもあり、乳幼児および老人にとって安全で快適な環境整備を至急検討すべきである。

今回の比較検討により、事故による死亡率は全年齢階級でみると先進国の中で第5位であるものの、若年者と老人の死亡率が高いことが明らかになった。これらの年齢階級は社会的に弱者といわれる人々であり、行政や全国民がこれらの年齢階層に対して積極的な対応を行うことが必要である。

V おわりに

わが国の事故死亡率の国際比較において、全年齢をみると事故の死亡率は低値であるが、小児と老人においては高かった。今後これらの年齢階級の事故について十分検討し、弱者に対し安全に配慮した社会を早急に築くべきである。

文献

- 1) 厚生省大臣官房統計情報部、平成9年度人口動態統計。
- 2) 田中哲郎他：わが国のYPLL（損失生存可能年数）についての検討、日本医事新報：3727、26-30、平成7年。
- 3) 田中哲郎：小児期における不慮の事故死についての国際比較、日本医事新報、3359、30-34、1988。
- 4) 田中哲郎：小児の事故防止—国際比較を通してみる—、子どもと家庭、29、36-41、平成4年。
- 5) WORLD HEALTH STATISTICS ANNUAL 1996年版、GENEVE、1997。
- 6) WORLD HEALTH STATISTICS ANNUAL 1995年版、GENEVE、1996。

CD-Rのご案内

ファイル名	収録内容	提供価格（税別）
平成8年 人口動態統計 中巻・下巻	出生、死亡、死産、婚姻、離婚、死因（死産原因を含む）	25,000円
平成7年 社会医療診療行為別調査 上巻・下巻	政管健保・国保の施設の種類、入院・入院外、診療行為、回数・点数等	20,000円
平成8年 人口動態年次別死亡統計（保管表） 死因2表・死因6表	死亡数、性、年齢（5歳階級）・死因（簡単分類）・都道府県（13大都市再掲）別 死亡数・性・死因（選択死因分類）・都道府県（13大都市再掲）・市区町村別	7,500円
平成8年 社会福祉施設等調査	施設の種類、経営主体、職種別従事者数、定員、年齢階級別在所者数等、報告書には掲載されていない保管表	10,000円

財団法人

厚生統計協会・厚生情報開発センター

〒106-0032

東京都港区六本木5-13-14

TEL 03-3586-4927